

# 公立図書館における蔵書点検実施状況と紛失率

松本直樹（慶應義塾大学） 小川万柚（元・慶應義塾大学）

## 背景と目的

- 蔵書点検とは、蔵書全体を書架目録と照合し、蔵書の現状や紛失資料の有無を確認することである。
- 蔵書点検を実施することで資料を適切に管理することができ、利用者の資料要求に適切に応えることが可能になる。
- 近年、ICタグの活用やAIを活用した蔵書点検も普及してきた。また、盗難防止装置も多くの図書館で導入されている。
- 本研究では公立図書館の蔵書点検の現状を明らかにする。
- 特に、近年の蔵書点検で、**RQ1：どのように蔵書点検が実施されているのか**、**RQ2：紛失率はどの程度か**、を明らかにする。

## 調査方法

- 対象図書館**：関東地方1都6県の公立図書館。質問紙を都県全館とランダムサンプリングで抽出した区市町村146自治体の図書館に送付。質問紙は中央館に送付し、回答は中央館のみの情報とした。分館・地域館の情報は含まないよう依頼。
- 実施時期**：質問紙を2023年10月に送付し回答期限は11月とした。111館から回答（有効回収率76.0%）
- 調査事項**：①BDS設置の有無、②蔵書点検の実施の有無、③実施頻度、④対象資料の範囲、⑤読み取りの方法、⑥読み取りにかかる日数、⑦蔵書点検のための休館日数、⑧点検対象数、⑨蔵書点検の作業にあたる職員数、⑩不明資料数、⑪蔵書点検の課題、⑫蔵書点検非実施館の理由

## 調査結果

**RQ1**：111館全てで蔵書点検を実施 / 実施頻度は1年に1回が99館（88.4%）で最多 / 点検資料は「一部除外」が61館（54.5%）で最多。つづいて「すべて」が51館（45.5%） / 作業日数は3日～4日が45館（40.2%）、つづいて1日～2日が23館（20.5%） / 対象点数は21～30万点と31～50万点がともに31館（27.7%）で最多 / 最大従事人数は11人～20人と21人～30人がともに28館（25.0%）で最多。

**RQ2**：不明率は0.05%以下が最多 / BDS設置館の紛失率は未設置館の半分以下

### 実施方法（複数回答可）

実施方法	館数	比率
バーコード（オンライン処理）	42	37.8%
バーコード（オフライン処理）	75	67.6%
ICタグ(HF帯)	20	18.0%
ICタグ(UHF帯)	13	11.7%
カメレオンバーコード	1	0.9%
その他:	1	0.9%

### 実施方法ごとの平均処理点数（1人/1日）

実施方法	館数	処理点数
バーコード（オンライン処理）	15	3518.5
バーコード（オフライン処理）	44	5348.8
ICタグ(HF帯)	8	7717.2
ICタグ(UHF帯)	5	4858.7
カメレオンバーコード	1	3809.5

### BDS設置と紛失率

設置の状況	館数	紛失率
設置している	54	0.060%
設置していない	51	0.129%
一部設置している	6	0.088%

### 紛失率

紛失率	館数	累積館数	累積比率
～0.05%	16	49	45.8%
0.05%～0.10%	33	77	72.0%
0.10%～0.15%	11	90	84.1%
0.15%～0.20%	4	99	92.5%
0.20%～	8	107	100%

### 蔵書点検の課題（複数回答可）

課題	館数	比率
点検に時間がかかる	79	70.5%
読み取りにミスが生じる	48	42.9%
閉館しなければならない	70	62.5%
使用する機器に不具合がある	7	6.3%
使用する機器が足りない	22	19.6%
一度に多くの人手が必要である	77	68.8%
かかる労力に相応した効果が見られない	2	1.8%
その他	0	0.0%

## 考察

伊藤等（1992）の調査では、蔵書点検の実施率は70.5%だったが、現在ではすべての図書館で行われている。紛失率は伊藤等の研究と比較して大幅に低下している。また、ICタグ・バーコードなど蔵書管理方式によって処理可能件数が大きく異なること、紛失率は9割以上が0.2%以下であること、BDS設置は紛失率に影響のあることも明らかになった。本研究は、今後の資料管理のあり方および蔵書点検の実施方法などの検討に寄与しうる点で意義がある。